

郡山市議会 志翔会 令和2年12月定例会議会報告



令和2年12月定例会で旧豊田貯水池利活用特別委員会設置!!

定例会の概要

令和2年12月定例会は、令和2年12月2日に開会し、当局から提案された議案について全て可決し、12月17日に閉会しました。

可決された12月補正予算の主な内容

1 感染症拡大防止策と医療提供体制の整備

新型コロナウイルス感染症対策の拡充 9,000万円

<p>PCR検査の公費負担 補正額3,410万円（既予算額1億8,413万円） 財源：感染症予防事業費国庫負担金 補助率1/2</p> <p>PCR検査 行政が実施する検査 医療機関が実施する検査 民間検査機関 200件/日・172日 PCR検査 ・保険診療（経費1割～1割） 3,328万円 ・事務の代行委託 82万円</p>	<p>協力医療機関への支援 補正額5,590万円（既予算額5,316万円）財源：市債</p> <p>検体運搬・採集費外車等検体採取補助金 ▽内容：行政検体採集料を補助 ▽補助額：1万円/1人採取 705万円</p> <p>入院医療機関入院補助金 ▽内容：入院患者数と日数に応じて補助 ▽補助額：1万円/入院1日 4,480万円</p> <p>診療所院内感染対策補助金 ▽内容：診療患者が陽性であった場合の消毒経費等補助 ▽補助額：5万円/陽性患者1人 465万円</p> <p>市内主要施設向け検体回収（今回補正予算上なし） ▽内容：感染症指定医療機関への移送に利用する医師・看護師への補助（補助額：医師34,816円/看護1回など）</p>
---	--

市有施設の感染症防止機能を強化 1億3,482万円

<p>大便器の洋式化 174カ所 ○洋式便器設置 ふたの自動開閉・鍵開、ウォシュレット</p> <p>○公共施設のトイレ洋式化率 67.2% → 73.5% 1,000カ所以上 累計洋式化率 34.6%</p>	<p>小便器の自動水栓化 33カ所 ○センサー式フラッシュバルブ設置</p> <p>手洗いの自動水栓化 90カ所 ○水栓ハンドルを自動水栓化</p>
--	--

3 強靱な経済構造の構築

光ファイバ網未整備地区を解消(中田町柳橋地区) 1億1,669万円

新しい生活様式に対応した取り組みを推進するための基盤整備として、市内で唯一未整備の中田町柳橋地区に光ファイバ回線を整備し、郡山全域のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進します。

1 事業概要

総務省「高度無線環境整備推進事業」の補助金を活用し、中田町柳橋地区に光ファイバ回線を整備します。
※整備手法は民間民営方式、市は民間通信事業者に補助金を交付。

◆事業対象地域(柳橋地区)
NTT東日本柳橋交換所のサービスエリアを対象とする。
東中田町柳橋、牛込本郷、黒木、木目沢、朝板、下枝、中津川
941世帯（R2.1.1現在）

3 事業期間
開始 2020年(令和2年)12月 ⇒完成 2022年(令和4年)3月
※工事の進捗等により、完成が早まる場合もある。

2 整備後のイメージ

家庭・公共施設・事業所等で、光ブロードバンドサービスが利用可能となります。
5GやIoTなどの技術を利用し、農業・観光・防災・医療分野等のDX推進の基盤インフラとなります。

2 雇用の維持と事業の継続

学校給食費への財政支援による保護者負担軽減の延長 1億3,808万円

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないことから、児童・生徒の各家庭の負担軽減を図るため、財政支援による給食費の2分の1の軽減を2学期に引き続き3学期も継続して実施します。

4 気候変動対応型まちづくりの推進

損壊家屋等の解体・撤去 2億6,236万円

令和元年東日本台風により被災した家屋等の解体・撤去を実施し、年度内の完了を目指します。



12月定例会市政一般質問

要旨

来年度における幹線道路整備の進捗状況について

問 来年度における東部地区の幹線道路整備の見通しはどのようになっているのか。

答 内環状線（第3期工区）の500m区間では、引き続き、用地取得及び物件補償を進める外、今年度、用地協力いただいた区間約280mの側溝整備等を予定。また、西田町大田地区の大田2号線では、80m区間の道路改良工事を、郡山中央工業団地内の金屋水門町2号線では、今年度整備箇所から南側部分の整備を予定しており、引き続き、国の社会資本整備総合交付金を最大活用しながら早期完成を目指す。



村上 晃一



町内会等からの道路整備の要望への対応について

問 市に対しては、町内会から、数多くの要望が出されているが、特に、市道の新設や拡張、舗装、道路側溝の整備やフタかけなど、市民生活に直結する生活道路の整備に関する要望は、多数を占めていると思うが、これらの市道整備にかかる要望に対して、どのような考え方で優先順位等を定め、対応しているのか。

答 生活道路は、地域住民が常に利用する道路として、子どもや高齢者、障がい者への配慮や災害等への対応を考慮し、安全で快適な道路であることが求められることから、町内会の合意形成が図られた要望の優先順位を踏まえ、要望箇所の利用状況及び地形、地



非常に危険な東部地区の市道

権者の協力等を考慮し、緊急性、必要性等の観点で総合的に判断し、計画的に道路整備を進めている。

エッセン市との連携について

問 現在ドイツでは、再生可能エネルギー由来の電力を利用し水を電気分解して生成されるグリーン水素で世界の水素利用の牽引役を目指しており、水素社会構築に向けた取組みが加速していることから、エッセン市と水素分野で更に連携を強化していくべきと考えるが、当局の見解を伺う。



佐藤 栄作



答 本年10月に実施したウェブミーティングにおいて、エッセン市の水素コンサルタント会社や、大手ガス・水・電気供給公社が、FREAの水素関連施設や実証技術に関心を示し、具体的な連携についての検討がなされていると伺っている。今後においても、「郡山市水素利活用推進研究会」の活動等と連動させながら、両市の企業間連携にもつながるような取組みを促進していく。

先進的農業分野におけるオランダとの連携について

問 世界で農業のIT化いわゆる「スマートアグリ」の先進地といえばオランダだが、本市の農業活性化に繋げるには、オランダと先進的農業分野において連携を図るべきだと思うが、当局の見解を伺う。

答 本年11月には、駐日オランダ大使館主催によるオンライン・セミナーにおいて、環境制御技術によるハウス栽培の持続可能性や収益性向上などについて、情報の収集に努めたところである。今後においても、東京農工大学、福島大学、県農業総合センター並びに農研機構等の研究機関と連携して、先進的農業分野であるスマート農業の推進に努めていきたい。



世界一の農業大学であるオランダのワーヘニンゲン大学

今回改定された郡山市人口ビジョンについて…目標の上方修正について

問 政策の前倒しにより、人口33万人を維持するという目標に上方修正すべきと考えるが。

答 今後においては、2020年国勢調査の結果を踏まえた国の長期ビジョンの見直しに合わせ、本市の人口ビジョンについても、柔軟に見直す。



川前 光徳



PEP Kids Koriyamaの今後の運営について…存在意義について

問 ゲームやスマホなどの手軽な、メディアが深く浸透している子供の日常に、安心して遊べる場所と時間を確保することは、郡山市の子育てにとって重要であり、PEP Kids Koriyamaの存在は、それを果たすための重要な施設と考えるが、見解は。

答 子供は遊びながら運動する習慣を身につけるものであるが、少子化・核家族化により、子供同士の関係が希薄化していることに加え、都市化により子供が遊べる広場等も減少するなど、子供を取り巻く環境も変化しており、安全で安心な遊び場が以前より求められている状況にある。こうしたことから、ペップキッズこおりやまをはじめとした屋内遊び場の重要性は高まっているものと考えており、子供たちが楽しみながら安全に運動できる環境として、また、子供や親同士のコミュニケーションの場としても、本市の子育て支援に必要な施設と捉えている。



PEP Kids Koriyamaの室内

品川市政のキーワード・キャッチフレーズについて…分りやすい予算資料について

問 令和3年3月定例会においては、市民に分りやすい予算資料を改めて示して欲しいと思うが、見解は。

答 予算資料の作成にあたっては、3月定例会に市民が見た際、自身の生活とどのように関連するのか等の視点



塩田 義智



で、さらにカイゼンを加えた資料を示したい。

三穂田町の諸課題について… 郡山南インターチェンジ周辺の開発について

問 JA福島さくらがカルチャーパーク南側に整備を進めている農産物直売所の開設が、大型ショッピングモールの誘致についても、今後の取り組みに何らかの好影響を与えるのか、見解は。

答 農産物直売所は、都市計画法第34条第9号における沿道サービス施設として開設されるもので、大型商業施設の立地に関する都市計画法や農業振興地域の整備に関する法律などに、何らかの動きがあったわけではない。しかしながら、本地域は、多様なポテンシャルを有するエリアであり、2019年に策定した「こおりやま産業持続・発展ビジョン」では、「交通アクセスを生かした拠点」等を有したエリアとして分類した。今後は、先行している他地域の市街化調整区域における大型商業施設の開発動向等も注視し、当該エリアのポテンシャルが十分に活かせるよう、取り組んでいきたい。



カルチャーパーク南側に3月完成予定の農産物直売所「あぐりあ」

自然災害や新型コロナウイルス感染症から市民生活を守るために…飲食店の従業員等に対するPCR検査について

問 本市では郡山駅周辺の飲食店の従業員等に対するPCR検査を無料で実施しているが、飲食店、繁華街は他地区にもあり、今後のPCR検査体制及び飲食店関係者に対する啓発については。



近内 利男



答 令和3年1月から2月までに、郡山市内全域のキャバレー、クラブ、バー、スナックなど接客時間が長い4業態約610店舗の従業員を対象とするPCR検査を実施する予定である。

住宅政策について…市街化調整区域における空き家対策について

問 空き家に付随した農地の取得条件の緩和を示した農業委員会の取り組みと連携さ

せ、賃貸住宅への用途変更を認めることで、住宅政策、空き家対策が大きく前進すると思うが、見解は。

答 農業後継者不足等により、市街化調整区域においても、空き家の増加が考えられることから、地域住民のコミュニティ維持が図られるよう、農業委員会や関連部局との連携を含め、賃貸住宅の許可基準について、検討していく。



地球温暖化の脅威と郡山市の施策について…被災者支援について

問 品川市長は、9月定例会の「都市計画マスタープランや立地適正化計画の見直し」の質問に「災害リスクの低いエリアへ住宅及び都市機能増進施設を誘導していく」と答弁しているが、形だけでなく、被害者の心に寄り添った施策を実施すべきと考えるが、見解は。



佐藤 政喜



答 防災指針の作成を含む立地適正化計画の見直しについては、12月から、国の補助事業による「居住機能の移転促進に向けた調査業務委託」において、被害に遭われた市民を対象にアンケートを実施し、様々な意見

を伺うとともに、災害ハザードエリアからの移転促進に向けた事業など、あらゆる支援事業に対し、国の技術的助言を得ながら、市民が安全・安心に暮らせるよう、まちづくりに関わる防災・減災対策が向上する施策について、関係機関と連携し検討していく。

自然災害対策のトレーラーハウスの活用について

問 連携中枢都市圏の16市町村が、財政規模に合わせてトレーラーハウスを導入し、災害のあった市町村に移動して避難所として活用すれば、1自治体の負担も軽減される。さらにコロナ禍の状況下、避難所の3密を回避するためにもトレーラーハウスの導入を検討すべきと考えるが、見解は。

答 短時間に仮設住宅が整備されるなど、被災者支援の1つとして有効である。しかし、平時における利用方法や保管場所、けん引車両及び運転する人材の確保などが必要である。また、倉敷市の活用事例ではトレーラー1台あたり1世帯の入居としており、災害時には、多くのトレーラーが必要となるなどの課題もあり、導入自治体の状況等について調査、研究していく。



トピックス

旧豊田貯水池利活用特別委員会設置

令和2年3月会長会において、旧豊田貯水池利活用方針案（中間とりまとめ）として当局からほぼ現状維持に近い3つの案が提示されました。しかしながら、3つの案に対し各会派から様々な意見が出されました。

そこで、平成29年12月に設置された議会改革特別委員会における決定に基づき設置された政策等調査検討会でこの問題について令和2年6月～11月の期間に6回に渡って審議しました。審議の結果、①市民ニーズを把握しながら決定することが必要であり、結論を急ぐべきではない、②浄水場跡地を駐車場として暫定利用を行う必要があること、③議会からの意見を提言することができるよう特別委員会を設置し、審議する必要があるという3つの検討結果が出されました。

検討結果に基づき、12月定例会最終日である令和2年12月17日に旧豊田貯水池利活用特別委員会が設置されました。旧豊田貯水池が、中心市街地活性化に寄与し、さらには市民の皆さまの意見も反映できるよう志翔会でも幅広く議論して参ります。

写真で見る志翔会

令和2年11月20日、富田町にある医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する「ふくしま医療機器開発支援センター」を視察しました。センター長を務める滝澤眞己氏から施設の概要や平成28年11月の開所から現在までの経過について説明を受けた後、模擬手術を行うアンギオハイブリッド手術室や電磁波の測定などを行う10m法電波暗室などの各施設を見学しました。センター開設当初は、事業収入の不足が大きな問題となりましたが、生物試験や電気試験などに対応する国際認証の取得など信頼の確保によって、県内外の医療機器メーカー約100社が利用し、7割がリピーターとなり事業収入も年々伸びているとのことでした。

本市では、「メディカルヒルズ郡山基本構想2.0」を掲げており、センター周辺の旧県農業試験場跡地を中心とする市街化調整区域（約30ha）において、医療機器関連産業分野を中心とする新たな産業の集積拠点を目指しています。今後、県と連携を図りながら医療機器関連のベンチャー企業の誘致等で雇用の創出を図るといった本市経済の活性化の必要性を感じました。



◆志翔会議員紹介（期数・地区・連絡先・市議会役職・常任委員会）



村上 晃一（1期）
安原町 ☎944-7507
建設水道
広聴広報



森合 秀行（2期）
安積町 ☎953-7885
文教福祉
議会運営
広聴広報（委員長）



佐藤 栄作（2期）
富田町 ☎932-2780
環境経済（副委員長）
議会運営 広聴広報
旧豊田貯水池利活用特別委員会（副委員長）



佐藤 徹哉（3期）
菜根 ☎923-4485
総務財政・議会運営（委員長）
旧豊田貯水池利活用特別委員会



川前 光徳（3期）
堂前町 ☎922-5265
文教福祉



塩田 義智（4期）
三穂田町 ☎945-2015
総務財政（委員長）
議会運営



近内 利男（4期）
緑ヶ丘 ☎942-7967
市監査委員・環境経済



久野 三男（4期）
方八町 ☎943-3200
文教福祉（委員長）
旧豊田貯水池利活用特別委員会



佐藤 政喜（4期）
大槻町 ☎951-2316
（前議長）・環境経済



大城 宏之（5期）
安積町 ☎945-6566
建設水道
議会運営



七海喜久雄（5期）
中田町 ☎922-9587
市議会議長



鈴木 祐治（6期）
田村町 ☎955-2172
（元副議長）・建設水道

編集後記

コロナ禍の状況下、先行きが不透明で陰鬱な日々です。しかし、そんな時だからこそ正確な情報を的確に捉えるように努め、現在そして未来の郡山のすがたや市民に開かれた議会のあり方について、主体的に考え行動できるよう焦らず、深くじっくり考え、粘り強く課題解決を目指して参りたいと思います。（森合 秀行）